

シミュレーション教育を用いた 喀痰吸引等フォローアップ研修の開発及び評価

福祉総合学科・伊藤将子¹⁾

研究協力者: 橋爪祐美²⁾、安田孝¹⁾、伊賀聡子³⁾、松浦弘典¹⁾

1)福祉総合学部福祉総合学科, 2)筑波大学医学医療系, 3)看護学部看護学科

研究背景: 介護職が行うことができる喀痰吸引等の内容と範囲

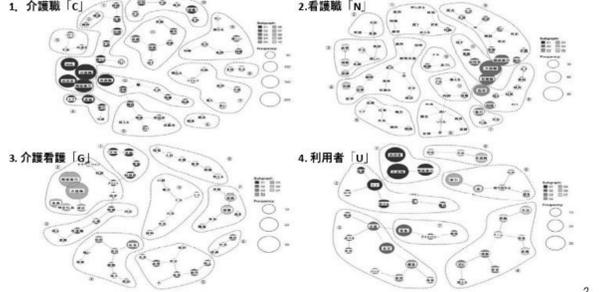
1. 口腔・鼻腔内の吸引
・咽頭手前まで
2. 気管カニューレ内の吸引
・気管カニューレの長さを超えない
* 経鼻経管栄養チューブの挿入状態の確認, 及び経管栄養チューブからの投薬は看護師等が行い, 介護職は行わない.

研究背景: 非医療職者(UAP)による医行為ー諸外国との比較

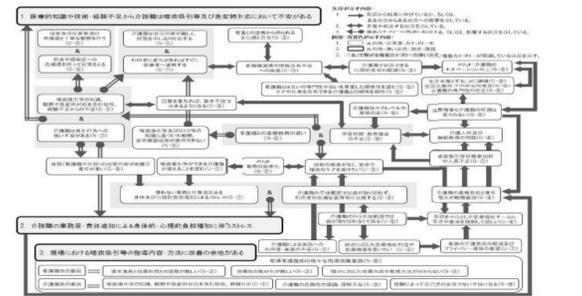
Table comparing Japan, France, and the UK regarding UAP qualifications, training hours, and delegation.

アメリカ等における非医療職者(UAP:Unlicensed Assistive Personnel)による医療行為は, 看護職等からの「Delegation」という形で業務シフトが行われている³⁾. 委任される医療行為は多岐に渡り, 教育プログラムも個々の看護職等に委ねられている⁴⁾.

文献レビュー: 対象者ごとの共起ネットワークとカテゴリ



共起ネットワーク分析による各カテゴリ間の関係図



質問紙調査 研究方法

- 分析対象: 介護職: 全国の登録特定行為事業者から系統抽出した1400事業所
看護職: 全国の登録特定行為事業者及び登録研修機関から系統抽出した1400事業所
研究方法: 自記式質問紙調査(郵送式・Web調査)
調査期間: 2022年5月~2023年4月

質問紙調査: 基本属性

Table showing basic attributes of respondents: 介護職 (234件, 16.7%) and 看護職 (197件, 14.1%).

喀痰吸引等の職務継続意向に影響する要因(介護職)

Table showing factors influencing job continuation intention for nursing staff, including standardized coefficients and p-values.

喀痰吸引等の職務継続意向と手技指導を受けた頻度との関係(介護職)

Table showing the relationship between job continuation intention and frequency of receiving manual instruction.

吸引実施の心理的負担に影響する吸引実施頻度(介護職)

Table showing the relationship between psychological burden and frequency of suction implementation.

希望する研修(介護職)と実施している研修(看護職)

希望する研修(介護職)の上位は、「ヒヤリハット・アクシデント事例(68.5%)」及び「緊急時・災害時の対応方法(65.7%)」であった。
一方、看護職による実施率は27.7%(-40.8ポイント)と4.5%(-24.2ポイント)であり、介護職の研修ニーズと異なっていた。

インタビュー調査 研究方法

- 研究背景: 介護職の喀痰吸引等の職務継続意向を高めるためのサポートは, 登録特定行為事業者の運営母体や職員数, ケア対象者である利用者の生活や状態像によって異なると思われる。
研究目的: 様々な事業所形態における喀痰吸引等の安全対策の現状を把握するとともに, 介護職が喀痰吸引等を安全に安心して提供するためのフォローアップ体制の在り方について検討する。

インタビュー対象者の概要

Table summarizing the profiles of interviewees, including their roles and work environments.

喀痰吸引等に関する課題

Table listing various issues related to suction, categorized by knowledge, skills, and legal/regulatory aspects.

両職種による喀痰吸引等の安全対策(一部抜粋)

Table comparing safety measures for suction between nursing and care staff across different skill areas.

介入研究-シミュレーション研修

Table summarizing the simulation intervention, including objectives and participant feedback.

ツール1 ABCDE評価⁶⁾ -STEP1から観察してみましょう-

Table for ABCDE evaluation tool, Step 1, detailing observation points and assessment items.

ツール2 SBAR⁷⁾(エスパー)カード⁸⁾

Table for SBAR (Esper) card, detailing the structure and content of the communication tool.

介入研究対象者の概要・ABCDE評価点数・SBAR点数の変化

Table showing the change in ABCDE evaluation scores and SBAR scores for the intervention group.

吸引実施頻度とABCDE評価点数(前後)のχ2検定

Table showing the chi-square test results for the relationship between suction frequency and ABCDE scores.

吸引実施頻度とSBAR点数(前後)のχ2検定

Table showing the chi-square test results for the relationship between suction frequency and SBAR scores.

まとめ

- 1. トラブル対応型シミュレーション研修の効果
・ ABCDE評価及びSBAR点数は, 研修後が有意に高かったことから, トラブル対応型シミュレーション研修の有効性が確認された。
・ また, ABCDE評価及びSBAR点数は, 吸引実施頻度と関連があり, 頻度が多い場合に点数が高いことが確認された。
・ 井出ら^{18), 19)}の報告と同様に, 「ABCDE評価」や「SBAR」カードを作成した結果, 『報告の例があり, 実施しやすい(流れが把握できる)』等からも, これらのツールが介護職の理解を助けたと推測する。